

能代高校この十年



能代高校は社会情勢や経済状況の変化に

応しながら、地域の拠点校として教育目標を達成すべく、より充実した教育体制の確立と環境づくりを目指してきた。この十年間の取り組みの中で、いくつかの事項について述べたい。

【全日制課程の適正な規模と配置】

秋田県は、少子高齢化の社会構造の変化と、中学校卒業者の大幅な減少に対応し、高等学校の統合や再編整備計画を実施してきた。能代山本地区では、平成25年に能代北高校と能代商業高校が統合して能代市緑町に能代松陽高校が開校した。今後、能代工業高校と能代西高校の統合も予定されている。

能代高校は、平成17年から1学級減となり、現在は6学級235名の定員である。能代山本地区の小中学校の児童・生徒数の減少も深刻で、平成27年度入試では残念ながら定員割れとなってしまった。今後もこの傾向は続くことになるので、クラス減も視野に入れた学

校経営が求められる。

【教育課程】

学習指導要領改訂にともない、理科・数学が平成24年度に先行実施され、翌年には全ての教科で新課程が完全実施された。平成27年度は全学年で新課程となっている。

学習指導要領の改訂や学力向上のために何度か教育課程が見直された。平成16年度から二期制となり、また、週1日50分7時限授業が実施された。平成19年には50分7時限授業が週2日となった。さらに、平成23年からは45分7時限授業が実施され、現在に至っている。今後も、さらなる学力向上を目指し、大入試への対応も考慮しながら、より良い教育課程を模索する必要がある。

【Will Project】

高等学校でのキャリア教育の充実が叫ばれる中、平成19年より、本校でWill Projectがスタートした。このとき文部科学省の研究指

定を受けたこともあり、進学校のキャリア教育として全国的に知られることとなった。本プロジェクトでは総合的な学習の時間を中心に、職業や大学・学問研究、また、著名人による講演会などが行われる。2年次には全員が3日間のインターンシップを体験する。これらには大変な労力と時間を要するが、このような体験を通して生徒自身が自分を見つめ直し、「本当のなりたいもの」探しにつながっている。

【インターンシップ】

Will Projectの大きな柱として、2年生の夏季休業中に3日間の日程でインターンシップが実施される。これは、1年次に行ってきた職業研究を基に、自分が将来就きたい職業を体験することが目的である。実習先の方から仕事について直接お話を伺ったり、実際に業務を体験することで、仕事をするこの意義ややり甲斐、苦労などを知り、職業について理解を深めることにつながる。

インターンシップの実習先は原則生徒の希望優先であるが、企業等の事情で受け入れてもらえない場合もある。例年、秋田市や県外の企業等を希望する生徒もいる。実習に関わる費用は個人負担である。さらに実習先への事前打合せの連絡も生徒が行っている。ま

た、実施後はレポートを作成し、その後、クラス内発表や校内発表会が行われる。これらは表現力や情報発信力、コミュニケーション能力の育成に大いに役立っている。



校内発表会



厚生医療センターのリハビリ

【理数科】

平成15年度、青少年の「理科離れ」の対応と数学・理科強化のために、普通・理数科のくくり募集の形で理数科が新設された。翌平成16年に41名からなる2年生理数科が誕生した。理数科は普通科理型と異なり、数学と理科の専門教科の単位数が多く、課題研究や秋田県理数科合同研修会、白神山地の自然観察会等の理数科独自の事業がある。平成24年の課題研究物理班はロケット甲子園で優勝し、翌平成25年アメリカで開催された2013 TARCに出場した。理数科の特色を活かし、

科学的思考力を高め、創造的な能力を育成し、将来の科学者・技術者の卵を育てている。

【十里強歩】

能代高校伝統の行事で、現在は9月の第一日曜日に実施されている。隔年で北コース（富根・常盤）と南コース（森岳・琴丘）で行われ、男子は午前0時に本校をスタートし、女子は午前1時30分にスタートし、能代高校を目指す。最近では完歩率が97%を超える。この十年間では第62回（平成21年）が新型インフルエンザのため、第66回（平成25年）が台風による荒天のため中止となった。実施にあたってはPTAを始め保護者の方や地域の方々にご協力いただいている。



十里強歩

【学校評議員制度】

学校評議員は、校長の求めに応じて、教育活動の実施、学校と地域社会の連携の進め方など校長の行う学校経営に関して意見を述べ、助言を行う。本校では4名の評議員によ

り10月と2月の年2回評議員会を開催し、地域の声を学校経営に反映させている。

【学校評価アンケート】

能代高校では「学校・家庭・地域が一体となった学校づくり」に取り組み一環として、毎年学校評価アンケートを実施している。これは保護者と生徒を対象に毎年12月に実施し、集計しており、回答率は90%を優に超える。自由記述の欄も含め、結果を各学年や各分掌の活動の反省や次年度の目標設定に役立てている。結果はホームページにも公開されている。

【校内授業研究会】

教員の授業力向上を目的に、研修部主催で年2回校内の授業研究会を実施している。年度始めに共通のテーマを設定し、テーマに基づいた授業研究を行う。その後教科毎の研究協議を通して、教員相互のスキルアップを図り、生徒の学力向上につながることをねらいとしている。

校訓「至誠力行」のもと、教育目標の「克己誠実」「自発学習」「部活精励」「国際理解」の実現を目指し、今後も時代の変化に対応しながら教育活動に邁進していく所存である。